

## <緒言>

2018－2019 年度代表幹事 三山雅子

『経済社会とジェンダー』第4巻を、みな様のお手元にお届けいたします。

本学会の前身である「フェミニスト経済学日本フォーラム」が、40名ほどの研究者の呼びかけによって設立されてから15年が経ちます。その後フォーラムは2008年に「日本フェミニスト経済学会」となり、2016年には学会誌『経済社会とジェンダー』を発刊するまでに至りました。これもひとえに会員のみな様や当学会の研究活動に協力・参加して下さった会員外の方々のお力によるものです。あらためてここに記して謝意を表したいと思えます。

この間、当学会は毎年1回の大会や研究会を開催してきました。今、そのテーマを振り返ってみるならば、フォーラム設立記念シンポジウムにおける「経済学をジェンダー化する」から始まって、少子化のフェミニスト経済分析・金融グローバリズムと貧困の女性化・ケア労働の諸相・家事労働を問い直す等、多岐にわたっています。また、その時々においてジェンダー視点から経済社会を見た時に、切実な問題をテーマに取り上げていることもわかります。

本号は、前号の特集「アベノミクスのジェンダー分析」と密接に関連する特集「働き方改革のジェンダーインパクト」と投稿論文からなります。お忙しい中、寄稿いただいたみな様にお礼を申し上げますとともに、力作揃いの論文がぜひ広く読まれるよう願っています。

このように順調に学会誌が発行できているのは編集業務を担当している編集委員会のみな様の尽力によるところが大きいと考えています。そして編集委員会がうまく機能しているのは、若い会員のみな様がお忙しいにもかかわらず、厭わず学会業務にご協力くださっているからであるこそと思っています。ここにお礼を述べるとともに、これからもどうぞ当学会の発展の為にお力を貸していただきますようお願いいたします。